

## 「障害と友達」

西尾市立幡豆中学校 三年

### 黒部 航平

障害といってもいろいろあります。

僕は自閉スペクトラム症とADDと診断されました。自閉スペクトラム症とは、人とのコミュニケーションが苦手・物事に強いこだわりがあるといった特徴をもつ発達障害の1つです。ADDは過去に使用されていた発達障害の診断名です。現在の診断基準では、ADDH（注意欠如・多動症）と呼ばれており、そのなかの不注意優勢型に該当すると言われるています。

僕と一緒に住んでいる祖父は昔、仕事で親指を切り落としてしまい、身体障害の手帳を持っているし母の祖父は、仕事でストレスと睡眠不足で躁うつ病になり、精神障害手帳を持っていました。

僕は、母から、よくおそろしくめんどくさがり屋だといわれます。自分の好きなことは、すぐく熱中して、調べたり、つくったりできるが、勉強や手伝いはやる気にならなくなります。

保育園の時自分では覚えてないけど2度脱走したことがあって母が先生からの電話に出て、家をさがしたらこたつの中にいたみたいです。小学校の時1年生は、通常級だったが授業を抜け出し、ブランコや木のぼりをして遊んでいてよく教頭先生と話をしました。2、3年は特別支援級に行くことになった。

そこは僕を含めて3人のクラスでした。そして、同じクラスになったせい君とよく遊んだ。せい君は首にギプスのようなものをはめていて僕より4つも学年が上の先輩だったが話しやすく、ついため口になつてしまいよく先生に注意されました。

4、5年生では、通常級にもどりました。たくさんの友達がいて、やっぱり楽しかった。

6年生ではまた、特別支援級になりました。5年生の時、勉強がついて行けてなかったのと当時は学年があれでいて先生達も余裕がなかったからだと思いました。中学1年も環境がかわるからという理由で特別支援級になった。今回この作文を書くにあたって人とのつながりについて考えてみました。

僕は小中と学校に通う中で小2、小3、小6、中1と、特別支援級を行ったり来たりしていました。

その中で思ったのは、友達との関わりです。通常級では、たくさんの友達と一緒に過ごし、学校以外でも遊ぶことが多かったが、特別支援級では、3人から6人位しかおらず、学校以外では友達と遊ぶことが少なくなつてしまった。遊びに行つたこともありましたが次に遊ぶ約束をしようと思つて母に聞いたら相手の子のお母さんに何かあるといけないからと断られたこともあります。

障害は人それぞれで、身体障害と知的障害もある子だったからしょうがないのかなと思つたけど本人は遊ぼうといつてくれているのに遊びに行けないのがすごく悲しいです。

家でゲーム1人でゲームすることが増えて、叔父さんに、オンラインゲームのやり方を教えてもらいましたその叔父さんのオンラインの友達とも遊ぶようになった。その子は埼玉県の子で僕より2つ上先輩で体が不自由で下半身が自分で思うように動かせずトイレも手伝ってもらわないと行けないそうです。でも、オンライン上のゲームやいろいろなことをすぐたくさん知っていてインターネットを通して友達をつくったり、遊んだり話したりできるんだということを知りました。

今、僕は通常級で過ごし、少ないけど仲の良い友達もでき、学校以外でも遊びに行ったりしているけど、障害がない友達でも合わない子もいるし障害があるないで環境が変わつて友達との出会の数は変わるけど自分から何かをすることによって出会の数は増えるんだなと思いました。

これからも少しずついろいろなことに挑戦し心の輪を広げて行けたらと思います。